

AINO VISION 2030 REPORT

Vol. 2

AINO VISION

学校法人 藍野大学
EDUCATIONAL FOUNDATION AINO UNIV.



学校法人藍野大学 建学の精神と教育理念の継承

■建学の精神

「愛智精神〔Philo-sophia〕に もとづく人間教育」

この建学の精神にもとづき、人間愛と智性と情操を高め、継続的な自己研鑽を基礎に深い探究心をもった医療従事者の養成に努めています。

〈Philo-sophia〉

ギリシャ語の「 $\phi\iota\lambda\sigma\phi\iota\alpha$ 」(philosophia、ピロソピア、フィロソフィア)は、「愛智」という意味である。哲学の語源であり日本語表記は「愛智」とする文献解釈が多い。元来「philosophia」は「知を愛する」「智を愛する」という意味が込められている。20世紀の神学者ジャン・ルクレールによれば、古代ギリシアにおい

てPhilosophiaとは認識のための理論や方法ではなくむしろ知恵・理性に従う生き方を指して使われ、中世の修道院でもこの用法が存続したとされる。

■教育理念

創設者小山昭夫の著書『人間と病気 - 医学と医療について - 』(1983年6月25日発刊)には『医療とは、医学の基礎の上に立つ医学の応用であるとともに、人間の苦に対して、人間としてどう対処するのか、病者にとって最善とは何か、を常日頃から問い合わせなければならぬ。こういう意味で我々は次の言葉を motto としているのである。』

“Saluti et solatio aegrorum”

(邦訳: 病める人々を医やすばかりでなく慰めるために)

この言葉が、学校法人藍野大学の教育理念として創基から50余年継承されています。

AINO VISION 2030 (2021年度～2030年度)

2030年度を目標年度とする長期ビジョン

学校法人藍野大学は2008年度以降、財政の安定化に一定の成果を収め、2014年には、理事長の諮問機関として「将来構想検討委員会」を発足させ、本法人運営のさらなる改善・充実に向けた将来構想“AINO VISION 2025”を答申しました。

そして2021年、持続可能な発展を推進するため、新たに“AINO VISION 2030”を策定しました。建学の精神と教育理念を体現する医療人の育成に努めるとともに、日本の地域医療の質の向上に貢献していきます。

AINO VISION 2030 の概念図



目次

建学の精神、AINO VISION 2030 (2021年度～2030年度)	1
理事長挨拶	2
将来構想計画	3

AINO VISION 2030	7
ロードマップ 2023～2030	11
News & Topics	12
地域創生・連携推進の状況	13

AINO's STYLE

～教学の主体性を重視した組織強化のためのマネジメント推進～



学校法人藍野大学、将来構想計画く AINO VISION 2030 > Vol. 2 の発行に際して、謹んでご挨拶を申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響が長期にわたる中、本法人及び設置校において様々な課題が山積し、その課題解決に向けて、まさに全学的総力を結集し、「本学の学びを止めない」という強い決意で取り組みを進めています。

本法人は、大阪府下と滋賀県に4つのキャンパス（大阪茨木キャンパス・大阪富田林キャンパス・びわこ東近江キャンパス・大阪阿倍野キャンパス）を有していますが、2022年は、明淨学院高等学校が設置者変更認可に伴い本法人の設置校となりました。現在、新校舎建設計画の推進及び衛生看護科の設置認可申請を行い、本法人による一貫教育の裾野が大きく広がりました。2024年4月には、明淨学院高等学校と藍野高等学校が統合され、大阪阿倍野キャンパスの新校舎で新たな学びが始まります。さらに2025年には、この大阪阿倍野キャンパスに藍野大学短期大学部第一看護学科・専攻科（大阪茨木キャンパス）と第二看護学科（大阪富田林キャンパス）が移転されます。これにより、高短大接続による一貫教育の拠点として新たな発展を目指します。

また、びわこリハビリテーション専門職大学（びわこ東近江キャンパス）は、教育環境充実のために新たな拠点として、「びわこ八日市キャンパス」の設置を決定しました。地域共生社会の実現に向けて東近江市の行政と商業の中心地である八日市駅前（近江鉄道八日市線）に新たなキャンパスを整備し、学部名称を総合リハビリテーション学部と改変、新たな学科として言語聴覚療法学科の設置を目指します。

藍野大学・大学院は、現在1研究科1学部4学科の編成ですが、2027年度までに、2研究科3学部体制に改組転換し、新学科設置計画を推進します。

併せて、将来構想計画く AINO VISION 2030 > Vol. 2 基本計画書には、「基本方針」「経営方針」「管理運営と理事会改革」の三つの方針を掲げ、一体的にガバナンス強化を推進します（→ P.3 参照）。

特に、「管理運営と理事会改革」においては、改正私立学校法（令和7年4月1日施行予定）に向けて、内部質保証実質化に向けた内部監査体制の確立を目指します。すでに、外部有識者を内部監査員（アドバイザリーボードメンバー）に招聘し、業務監査・会計監査・教学監査はもとより、教学の主体性を重視した組織強化のためのマネジメント推進に対して重層的な監査体制の構築のもと、指導・助言をいただくなどの体制を整え、法令改正等に向けて遺漏なき準備を進めています。

一方、設置校の学生・生徒は各々、授業、カリキュラム、図書館、課外活動施設、厚生施設、スクールバス等にやや不満を抱いていることが確認できます。これらの要望については定期的に調査し、学生・生徒の満足度を定量・定性化し、課題解決に向けて改善を促すPDCAサイクルに沿った取り組みを行ってまいります。

本法人は、大学、専門職大学、短期大学、高等学校において、その多くの学生・生徒は、医療系資格取得を目指して日々学習活動、実践活動に取り組んでいます。しかしながらその学びは、単一の専門領域に関する知見だけではなく、目指すことは、学生・生徒が自ら考え、発想し、自分の道を切り開いていく、生涯にわたって搖るぐことのない精神の軸を育てることと、社会への価値の創出を可能にする人材を育成することです。

将来構想計画く AINO VISION 2030 > Vol. 2 には、2030年度を目標年度とする本法人の長期ビジョンが示されています。建学の精神である「愛智精神〔Philosophia〕にもとづく人間教育」に立脚し、社会・経済の変化に伴う人材需要に即応した質の高い専門職業人材の養成を追究するという普遍的真理の探究は恒久不変であります。学生・生徒、保護者の皆さまを始め、医療福祉機関、地域社会の皆さまには、引き続きご理解とご支援を賜りたく心よりお願い申し上げます。

学校法人藍野大学 理事長

小川英夫

将来構想計画 AINO VISION 2030 Vol. 2

将来構想計画「AINO VISION 2030 Vol.2」は、3つの重要施策（基本方針・経営方針・管理運営と理事会改革）を2023（令和5）年1月30日開催の評議員会・理事会において議決しました。今後、この構想の具体化と推進は、それぞれの組織や個人のあり方が問われ、利害が関わってくるほど合意形成と改革の推進に困難も予想されますが、経営・教学・事務局が協働し築き上げた「経営方針」を学校法人全体で力を合わせて推し進めていきます。

1. 基本方針

「AINO VISION 2030 REPORT Vol.2」として「基本方針」「経営方針」「中期計画（KPI・KGI）」を策定し、社会に公表します。また、多様化する実社会においてCollaborative Creation（協創）による社会的価値創造を目指します。

2. 経営方針

「教育資源の選択と集中」、「教学の主体性尊重と法人ガバナンスの強化」、「組織強化のためのマネジメント推進」、「安定経営基盤の確立」の4本柱を「経営方針」として掲げ、設置校を構成する教育・事務職員の実践活動における具体的な改革と将来構想計画を結びつけることで将来に向けて磐石な基盤整備を目指します。

また、経営方針の指針となる中長期財政計画「AINO Financial Plan 2023-2030」では、日々刻々と環境が

変化する時代において現況を見極め、中長期財政計画に掲げる数値目標・指標をもとに財務・非財務の2軸によるマネジメントを推進し、より適切な経営判断を行うことを基本方針とします。さらに、計画や目指す姿に対して逐次精察し、財政基盤も財政収支も安定的に統制し、ステークホルダー及び社会の期待に応えるために教学における積極投資や施設の充実を学校法人理事会・評議員会が合理的に判断して充実させることも必要です。

その中でも、2024～2025年にかけて、大阪阿倍野キャンパスプロジェクト及びびわこ八日市キャンパスプロジェクトの施設整備計画、2027年を最終年度とする藍野大学・大学院2研究科3学部6学科1専攻科への改組転換完了に伴う新たな教育組織の設置や新機軸による教育組織の再編などを実行しつつ、創基60周年（2028年）以降もさらに発展するための安定的な財政基盤を確立することを目指します。

学校法人藍野大学（全体）2030年度財務比率に関する数値目標

判定項目		各比率の算出内訳				順位 (上位から)	階級 (下位から)
1	学生等数増減比	2023年度学生等数 2030年度学生等数	A B	2,971人 4,781人	学生等数増減比 $B / A \times 100$	160.9%	562法人中 56位
2	収容定員充足率	2030年度収容定員 2030年度学生等数	C D	4,620人 4,781人	収容定員充足率 $D / C \times 100$	103.5%	562法人中 112位
3	事業活動収支差額比率	2030年度事業活動収入 2030年度事業活動支出	E F	8,389百万円 7,456百万円	事業活動収支差額比率 $(E - F) / E \times 100$	11.1%	562法人中 168位
4	経常収支差額比率	2030年度経常収入 2030年度経常支出	G H	8,389百万円 7,500百万円	経常収支差額比率 $(G - H) / G \times 100$	10.6%	562法人中 168位
5	人件費比率	2030年度経常収入 2030年度人件費	I J	8,389百万円 4,488百万円	人件費比率 $J / I \times 100$	53.5%	562法人中 280位
6	運用資産余裕比率	2030年度運用資産 2030年度外部負債 2030年度経常支出	K L M	14,560百万円 3,685百万円 7,500百万円	運用資産余裕比率 $(K - L) / M \times 100$	145.0年	562法人中 56位
7	総負債比率	2030年度総資産 2030年度総負債	N O	75,952百万円 9,038百万円	総負債比率 $O / N \times 100$	11.9%	562法人中 280位
8	流動比率	2030年度流動資産 2030年度流動負債	P Q	15,119百万円 5,635百万円	流動比率 $P / Q \times 100$	268.3%	562法人中 280位

※ 日本私立学校振興・共済事業団：私学活性化分析資料（活性化指標その2）を用いた2030年度数値目標

3. 管理運営と理事会改革

私立学校法改正法案骨子及び大学設置・学校法人審議会 学校法人分科会 学校法人制度改革特別委員会「学校法人制度改革の具体的方策について【概要】」等の内容を理解し、改正私立学校法（令和7年4月1日施行予定）に向けて遗漏なきよう備えることを2023年1月30日開催の評議員会・理事会において議決しました。

法人意思決定の構造とガバナンス構造との適切な構築において、「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」の考え方をもとに、「学校法人藍野大学 役員（理事・監事）の職務及び職務内容」をそれぞれの権限を明確に整理・分配しています。

学校法人藍野大学 役員（理事・監事）

2023（令和5）年4月1日 現在

	選任条項	常勤 非常勤	氏名	現職及び 私学関連団体等役職名
<理事>定数9名～11名 現員11名				
理事長	寄附行為第6条 第5号	常勤	小山 英夫	・学校法人藍野大学 理事長
<理事長の職務> 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。（寄附行為第12条）				
<理事の担当する職務内容> 総括・将来構想（寄附行為施行細則第4条）				
副理事長	寄附行為第6条 第5号	常勤	山本 嘉人	・日本私立大学協会 評議員 ・日本私立短期大学協会 加盟校代表会員
<副理事長の職務> 副理事長は、理事長を補佐し、この法人の総合計画、事業推進及び財務運営を統括執行するとともに、理事長特命事項を担当し処理する。（寄附行為第13条）				
<理事の担当する職務内容> 事業推進・財務運営・理事長特命・IR・KPI・KGI評価・AINO VISION推進（寄附行為施行細則第4条）				
常務理事 (総務担当)	寄附行為第6条 第2号	常勤	山川 正信	・びわこリハビリテーション専門職大学 学長
<常務理事の職務> 常務理事は、理事長、副理事長を補佐し、この法人の業務を分掌する。（寄附行為第13条の2及び寄附行為施行細則第3条別表職務分掌）				
<理事の担当する職務内容> 教育活動・研究活動・社会貢献・地域連携・高大接続・自己点検評価（寄附行為施行細則第4条）				
常務理事 (財務担当)	寄附行為第6条 第5号	常勤	鷺見 光博	・学校法人藍野大学 常務理事（財務担当）
<常務理事の職務> 常務理事は、理事長、副理事長を補佐し、この法人の業務を分掌する。（寄附行為第13条の2及び寄附行為施行細則第3条別表職務分掌）				
<理事の担当する職務内容> コンプライアンス、USR（寄附行為施行細則第4条）				
常務理事 (一貫教育担当)	寄附行為第6条 第1号	常勤	佐々木 恵雲	・藍野大学 学長
<常務理事の職務> 常務理事は、理事長、副理事長を補佐し、この法人の業務を分掌する。（寄附行為第13条の2及び寄附行為施行細則第3条別表職務分掌）				
<理事の担当する職務内容> 教育活動・研究活動・社会貢献・地域連携・高大接続・自己点検評価（寄附行為施行細則第4条）				
理事	寄附行為第6条 第3号	常勤	足利 学	・藍野大学短期大学部 学長
<理事の担当する職務内容> 教育活動・研究活動・社会貢献・地域連携・高大接続・自己点検評価（寄附行為施行細則第4条）				

	選任条項	常勤 非常勤	氏名	現職及び 私学関連団体等役職名
理事	寄附行為第6条 第4号	常勤	志熊 博忠	・藍野高等学校 校長
<理事の担当する職務内容> 教育活動・研究活動・社会貢献・地域連携・高大接続・自己点検評価（寄附行為施行細則第4条）				
理事	寄附行為第6条 第5号	常勤	渡邊 雅彦	・明浄学院高等学校 校長
<理事の担当する職務内容> 教育活動・研究活動・社会貢献・地域連携・高大接続・自己点検評価（寄附行為施行細則第4条）				
理事	寄附行為第6条 第5号	非常勤	清水 達郎	・東洋興産株式会社 代表取締役
<理事の担当する職務内容> 事業会社支援・連携（寄附行為施行細則第4条）				
理事	寄附行為第6条 第5号	非常勤	奥 晃	・医療法人恭昭会 法人本部長
<理事の担当する職務内容> 産学官連携（寄附行為施行細則第4条）				
理事	寄附行為第6条 第6号	非常勤	岡山 榮雄	・中央総合会計事務所 所長 税理士
<理事の担当する職務内容> 事業会社支援・連携（寄附行為施行細則第4条）				
監事	寄附行為第7条	非常勤	中務 未樹	・プランシュ法律事務所 代表弁護士
<監事の職務> (寄附行為第16条)				
<監事の担当する職務内容> ガバナンス、業務監査、教学監査（寄附行為第16条）				
監事	寄附行為第7条	非常勤	堀江 亮司	・堀江公認会計士事務所 所長 ・公認会計士 税理士
<監事の職務> (寄附行為第16条)				
<監事の担当する職務内容> ガバナンス、業務監査、教学監査（寄附行為第16条）				

内部監査員 アドバイザリー・ボードメンバー（外部有識者）の委嘱

学校法人藍野大学は、2022年4月に理事長直轄の組織として内部監査室を設置し、多彩なバックボーンを持つ外部有識者をメンバーに招聘しました。

健全な学校運営及び組織の発展に資することを目的として、直接の利害をもたない中立的な第三者が監査に入ることで、私立学校法改正を視野に幅広い関係者の意見の反映を期待しています。

本学は様々な分野において経験豊かな外部人材を内部監査員として登用することで、組織の機能強化（全般的な監査意識・コンプライアンス意識の向上）に取り組み、高等教育機関として価値創出力のさらなる拡大を追求しています。

内部監査室の具体的な活動内容をご紹介します。



内部監査室キックオフミーティング

2022年6月29日、2022年度「内部監査室キックオフミーティング」をオンライン開催し、内部監査員の先生方からは、本学の将来構想計画『AINO VISION 2030』を視野に入れた教育活動、研究活動、社会貢献等について専門的知見による意見交換をいただきました。

WEB会議システム「Zoom」での内部監査室キックオフミーティングの様子



第1回内部監査員会議

2022年8月24日、第1回内部監査員会議をハイブリッド方式*で行いました。

主に私学法改正を踏まえた、内部監査の役割や方向性・目的などを確認し、内部監査規程の改善ポイント等を示していただきました。

*外部有識者は対面型会議方式、内部有識者はZoomによるWEB会議方式



第1回内部監査員会議の様子（アルカディア市ヶ谷 私学会館 6F・霧島にて）

議題

1. 学校法人藍野大学における内部監査について

- (1) 監査及び評価、助言・勧告、報告・提言
- (2) 法令適合性・適正性から有効性・効率性・経済性へ
- (3) 業務監査・会計監査からガバナンスの監査へ

2. 今、求められている内部監査について

- (1) 令和4年度改正私立学校法施行
- (2) 内部監査員の役割と求められる観点

3. これから内部監査はどうあるべきかについて

- (1) 発展を阻害しかねないリスクのヘッジ
- (2) 学校法人藍野大学 ガバナンス・コード【第1版】
- (3) 「守りの監査」と「攻めの監査」

4. 学校法人制度に関する意見交換

■ 内部監査員による実査

2022年11月26日、中間決算のタイミングに合わせ、臨時監査として内部監査員による実査が行われ、学校法人藍野大学内部監査規程の定めにより監査結果を報告しました。

監査対象は、学校法人藍野大学及び子会社（株式会社藍野大学事業部）における全ての業務であり、監査目的は、令和4年度中間期における学校法人藍野大学の業務に関する決定及び執行が関係する法令、諸規程に基づき行われているかの適正性を検証しました。

監査の総評としては、「現時点で学校法人藍野大学の業務及び会計の執行状況について、特段の疑義は見当たらず、適正な状態である」と重要な問題は確認されません

でしたが、「専門職大学について具体的な赤字解消の方策を検討する必要がある」や、「株式会社藍野大学事業部について、事業部の重要な意思決定に関しては取り扱いや規程の制定を検討する必要がある」等、学校法人ガバナンス改革に向けた貴重な提言を得ることができました。



■ 公開シンポジウム

2022年11月27日、本学の内部監査員（兼アドバイザリーボードメンバー）の先生方が一堂に会し、“私立大学を取り巻く諸情勢～私立大学の社会的価値～”をメインテーマに公開シンポジウムを開催しました。

学校法人のガバナンス改革の法制度化に向けた動きや、2023年度からの大学設置基準の改正等を踏まえ、これからの大学運営はどうあるべきなのか、ご参加いただいた大学の皆さまが、自律的かつ主体的な大学改革の知見を見出す場となりました。



公開シンポジウムの様子（大阪茨木キャンパスにて）

■ 三様監査

学校法人藍野大学の管理運営制度の充実のために、三様監査による監査体制の向上を図っています。

1. (学校法人) 監事監査

令和2年4月1日施行、改正私立学校法による監事制度の改善に伴い、理事・理事会への以下の牽制機能の充実を求めています。

- ・業務監査
- ・財産状況監査
- ・監査報告書の作成・提出（事業計画・事業報告書及び財務状況）
- ・不正行為の報告（不正等の場合）評議員会の招集請求
- ・理事会への出席・意見陳述

2. 独立監査人監査

私立学校振興助成法に基づく監査については、監査法人の公認会計士による監査チームを構成し、会計監査を実施します。

3. 内部監査室監査

内部監査機能の改善を図り、業務監査（内部監査規程第4条第1項（1）・

内部監査実施要項第3条第1項一関係）、会計監査（内部監査規程第4条第1項（2）・内部監査実施要項第3条第1項二関係）及び事務部門の業務全般に関する監査を実施します。

学校法人藍野大学における三様監査は学校法人監事、独立監査人及び内部監査室による連携・協力を図るために、三者による情報交換・意見交換を行い、監査業務に役立てています。



学長・校長からのメッセージ

学校法人藍野大学を構成する各設置校の学長および校長から、将来構想計画<AINO VISION 2030>に係る基本方針をご説明いたします。

藍野大学

「藍野フィロソフィー」に基づく一貫した教育に取り組んでいきます

藍野大学 学長
佐々木 惠雲



急激に進行する少子化、遷延する COVID-19 パンデミック、日本経済の沈滞等、大学をめぐる状況は益々厳しさを増しています。

藍野大学ではこの危機的状況に対応するためにこの1年、様々な取り組みを行ってきました。今回、AINO VISION 2030 Vol. 2の作成にあたり、その中で主な2つの取り組みを紹介します。

第一に、建学の精神と教育理念に立ち返ることです。

このことは建学の精神と教育理念を体現する医療人の育成につながっていきます。具体的には、現代社会・医療状況の変化を鑑み、またラテン語の原文に精査を加え、教育理念について新たな解釈を試みました。「孤独という闇の中で病気に苦悩する人にとって、力強く、暖かい灯火のような存在になることが医療人の真の役割である。」さらに、建学の精神と教育理念に基づいて、藍野大学の教育スローガン「BE NEXT TO YOU 人の想いに応え、こころとからだ、そして生活を支える医療人へ」を制定し、2023年度より広報活動に積極的に使用していきます。また、藍野大学の教育の大きな特色である「Sym-medical（シン・メディカル）」の定義を明確にしました。「シン・メディカルとは様々な専門職が対話と議論を重ね、協働する中で、患者中心の医療を実現していく新しい医療の在り方」藍野大学ではこれらに必要なプロセスを実践的に学ぶ多職種連携教育を実践しています。そして、建学の精神、教育理念、シン・メディカルをまとめて「藍野フィロソフィー」と名付けました。今後、入学から卒業まで「藍野フィロソフィー」に基づく一貫した教育に取り組んでいきたいと考えています。

第二に、藍野大学が社会・地域から何を求められているかを明確にすることです。

それは日本の地域医療・地域生活に貢献できる良き医療人の育成だと考えます。そのためにまず地域社会との連携・協働を目的として近隣病院との包括連携協定（現在、藍野病院、藍野花園病院、青葉丘病院、高槻病院、京都済生会病院、高槻赤十字病院、北摂総合病院の7病院と締結）を推進し、地域ネットワークを構築する必要があると考えます。また、超高齢社会の到来、疾病構造の変化等により日本の医療現場は「身体的な治療に主眼を置く医療」から「患者さんの人生・生活を支える医療」へと大きく転換しつつあります。

その結果、益々高い専門性と深い教養・人間性がこれから医療人に要求されることは間違ひありません。そのためには現在の1学部4学科体制から看護学部、総合リハビリテーション学部、ライフ・サイエンス学部（仮称）の3学部体制に移行することが必須だと考えます。さらに、アカデミック教育充実のため、新しい修士課程として健康科学研究科、看護学研究科に助産師課程を設置予定です。将来的には博士課程の設置も構想中です。

プロフェッショナル教育に関しては、キャリア開発・研究センターの主力事業である「認定看護管理者教育課程」に加え、新たに「認定理学療法士養成講座」を開設する予定です。

最初に述べたように、藍野大学が直面する危機的事態は待ったなしの状況といえましょう。これからも改革の手を緩めることなく、教職協働をさらに強化しつつ、前進していきたいと考えています。

びわこリハビリテーション専門職大学

地域のコモンズ（公共財）として、専門職業人の養成を目指す

びわこリハビリテーション専門職大学 学長
山川 正信



本学は関西初のリハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士）を養成する大学として2020年に開学しました。「専門職大学」とは、専門知識や技術といった高度な「実践力」と、幅広い教養で新たなモノやサービスを生み出す豊かな「創造力」を育む職業教育を行うことを目的に2019年にスタートした新しい学校制度であります。また、社会で通用する技術や知識を身につけるために、実習等の授業で40単位以上の修得が卒業要件となっているのが特徴で、インターンシップや学外実習など、産業界や地域社会との結びつきの強い授業を展開し、各業界に精通した人材を育成します。現在、専門職大学19校、専門職短期大学3校、1専門職学科（2023年度開学予定含む）が開設されています。

専門職大学は産業界に精通する「実務家教員」を多数配置して、机上での学習に加えて地域や施設、スポーツ界等との密接な連携を通じた教育に多くの時間をかけ、様々な現場における課題発見や課題解決スキルを身につけ、即戦力となる人材養成を目標としています。

近年、少子高齢化の進展を背景に、地域における包括ケアとリハビリテーションの重要性が一段と高まっており、本学ではこうした社会的要請に応えるため、「研究+臨床実習」に基づいた独自のカリキュラムを提供しています。また、2024年度には八日市駅前に新たに八日市キャンパスを開設するとともに、言語聴覚療法学科を開設します。これにより、メジャーなリハビリテーション3学科を擁することから、総合的にリハビリテーション人材の養成を行います。

開学後、様々な地域課題を地域と協働して解決するための「フレイル・認知症予防研究センター」、入学後学習継続に問題を有する学生や特別な支援を必要とする学生のための「学習支援センター」、臨床実習指導者や現場で働く専門職を支援する「スキルアップセンター」などのセンターを設置して、課題解決に取り組んでいます。

近年のAIの進歩は著しく、様々な場面で応用されており、現在ある仕事の4割以上が5年後にはAIに取って替わられるともいわれていますが、生活者に寄り添い頼られる医療人として対人サービスを提供するリハビリテーション専門職の仕事は簡単には無くなりません。このことを社会や若者に周知する取り組みを強化して志願者増につなげたいと考えています。

地域住民を対象とした様々な事業には学生も積極的に協力して取り組んでおり、参加者からは好評を得ています。また、このような体験は、学生の充実感や達成感の増強につながっており、今後、このような取り組みの機会を増やしていきます。

生まれ育った地で学び、働き、地域の人々の役に立つ仕事に就きたいと考える県内外の若者とともに、産・官・学・地域との連携を強化し、人々の役に立つ公共財としての専門職大学へと充実・発展することを目指します。



八日市キャンパス完成予想写真

藍野大学短期大学部

新たな教育スローガン「柔軟性のある人へ～傾聴力と説明力～」

藍野大学短期大学部 学長
足利 学



藍野大学短期大学部では、建学の精神「愛智精神 (Philo-sophia)」にもとづく人間教育」を堅持しつつ、五十有余年継承されてきた教育理念「Saluti et solatio aegrorum～病める人々を医やすばかりでなく慰めるために～」の実現を問い合わせています。建学の精神にある「継続的な自己研鑽を基礎に深い探究心を養う」ためには、他者の考えを真摯に傾聴する柔軟な態度が求められます。さらに、教育理念にある「人間の苦に対して、人間としてどう対処するのか、病者にとって最善とは何か、を常日頃から問い合わせ続ける」ためには、自らの行動を変容させる柔軟性が必要と考えています。

そこで、本学では2023年度から新しい教育スローガン「柔軟性のある人へ～傾聴力と説明力～」を策定しました。価値観が多様化した現代社会では、患者さんや利用者さんのニーズも様々になっており、私たち医療従事者には、より適切なコミュニケーション能力が求められます。適切なコミュニケーション能力のある医療人とは、相手の話に耳を傾ける傾聴力と、自分の考えや経験したことを相手に誤解されることなく伝える説明力を兼ね備えている人だと考えています。

2025年4月に大阪茨木キャンパス（第一看護学科・専攻科）と大阪富田林キャンパス（第二看護学科）の2つのキャンパスが大阪阿倍野キャンパスへ移転すること

によって、新たな智の拠点が誕生する予定になっています。大阪阿倍野キャンパスには、明淨学院高等学校が同じ敷地内にあり、これまで以上に高短大連携を推進しやすい環境が整います。第一看護学科では、衛生看護科の生徒を受け入れることによって、実質的な5年一貫教育による看護師養成を達成できると考えています。第二看護学科では、看護メドカルコースの生徒を対象に特別推薦枠の拡大を考えており、引き続き連携を強化します。これにより、第二看護学科の学生は卒業後に同敷地内で保健師を目指しやすくなり、一体的な7年の教育体制【3+3+1：明淨学院高等学校+第二看護学科+専攻科】が完成します。

また、本学では地域貢献を推進することを考えています。これまで、メドカル・ヘルスイノベーション研究所内にある「あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーション」において、発達障がいのある子どもや保護者を支援してきました。これは医療に強い本学の特徴を活用した地域貢献の1つと位置づけており、今後も訪問看護を通じて、虐待予防や引きこもり支援、発達障がいのある大人の支援を行うなど、活動範囲を拡大したいと考えています。さらに、キャンパス移転先の大阪市阿倍野区において、短期大学部として何ができるのかの具体的な取り組みの内容を検討します。

藍野高等学校

社会に貢献できる自立した医療人の養成を目指します

藍野高等学校 校長
志熊 博忠



学校法人藍野大学は、中学校卒、高等学校卒、社会人経験者等にかかわらず、どんな年代の人でも、どんな家庭環境や経済的事情にある人でも看護師を目指すことができる教育課程を持つ国内でも稀有な学校法人です。

その中で、藍野高等学校は、2007年以降、高等学校の3年間で准看護師の資格を取得した1,175名の生徒たちを卒業生として送り出していました。その多くが、

藍野大学短期大学部第一看護学科を経て、現在看護師として活躍しています。

藍野高等学校の在校生および卒業生へのアンケートで、「なぜ、あなたは藍野高等学校を選びましたか?」と尋ねると、9割以上が「高校3年間で准看護師の資格が取れ、自立が可能となるから」と答えてくれます。これは、中学校から高等学校に進学する段階で衛生看護科への

進路を選択する生徒たちの多くが、「小さい頃からの夢である看護師へ少しでも早く近づきたい」という想いに加え、「経済的にもできるだけ早く自立したい」という強いニーズを抱えていることと深く関係しています。

このような生徒たちにとって、「高校3年+短大2年」で短期大学士の学位を持つ看護師を養成するカリキュラムは、最短で夢を実現でき、「社会に貢献できる自信」と「生きる力」を得られる堅固なパスウェイです。

「団塊の世代」と呼ばれる人たちが全員75歳以上となる2025年がすぐそこに迫り、2030年にかけては超高齢社会のさらなる拡大が加速していきます。

厚生労働省の推計では、2025年には、全国の医療・介護の現場において看護職が最大27万人不足するといわれ、とりわけ大阪府は、看護職員の充足率74.8%（不足数約3万6千人）と予想されています。在宅医療の現場における逼迫感はコロナ禍でも大きく顕在化しました。

近い将来の看護師不足が懸念され、喧伝される中、「高等学校～短期大学部第一看護学科」とつながる独自の看護師養成システムは、確実に社会のニーズに応える仕組みとして評価されるものと確信しています。

明淨学院高等学校

次の100年のスタート、高等学校・短期大学を有する 総合学園の誕生により教育的な環境価値を高める

明淨学院高等学校 校長
渡邊 雅彦



明淨学院高等学校はこれまでの100年余りの歴史のもと、2022年4月に学校法人藍野大学の設置校になりました。さらに2024年4月、高等学校新校舎落成、普通科と衛生看護科を備えて複数学科を有する総合的な高等学校の誕生、それは明淨学院高等学校の新しい次の100年のスタートになります。

また、学校法人藍野大学阿倍野キャンパスとしても、2025年藍野大学短期大学部の全面移転を受け、新しい高等学校とともに、大阪市内で非常に恵まれた立地条件のもと、高等学校と短期大学を有する総合学園として秀でたキャンパスがこの阿倍野地域に完成します。この学園構想は大いにまさしく地域貢献となり、阿倍野区の文教地区としての位置づけを確固たるものにし、この地域の教育的な環境価値を大いに高めることになります。

明淨学院高等学校では、今後、2030年までに普通科の発展として、2024年には女子高から男女共学化への転換を行います。男女を問わず幅広く、有能な人材を多数求め、高度な学びの機会を提供していきます。

普通科においては、5つの専攻（総合進学／幼児教育／クッキング／ITビジネス／ファッション・メイクアップ）に合わせた総合キャリアコースの充実を図り、さらに卒業後の進路実現を確実なものにし、また将来、社会でリーダーとなって活躍する明淨生の輩出に努めます。なお、総合キャリアコースでは、特別活動であるクラブ活動の支援にもさらに力を入れ、全国レベルで活躍する選手やクラブ活動の新たな創出を図ってまいります。

次に、普通科看護メディカルコースにおいては、その進路実現として、藍野大学、藍野大学短期大学部、びわこリハビリテーション専門職大学との高大連携をしっかりと維持し、内部進学制度を確実なものにすることで、総合学園としての学校価値、位置づけを明確化して、優秀な生徒確保に発展させることができます。

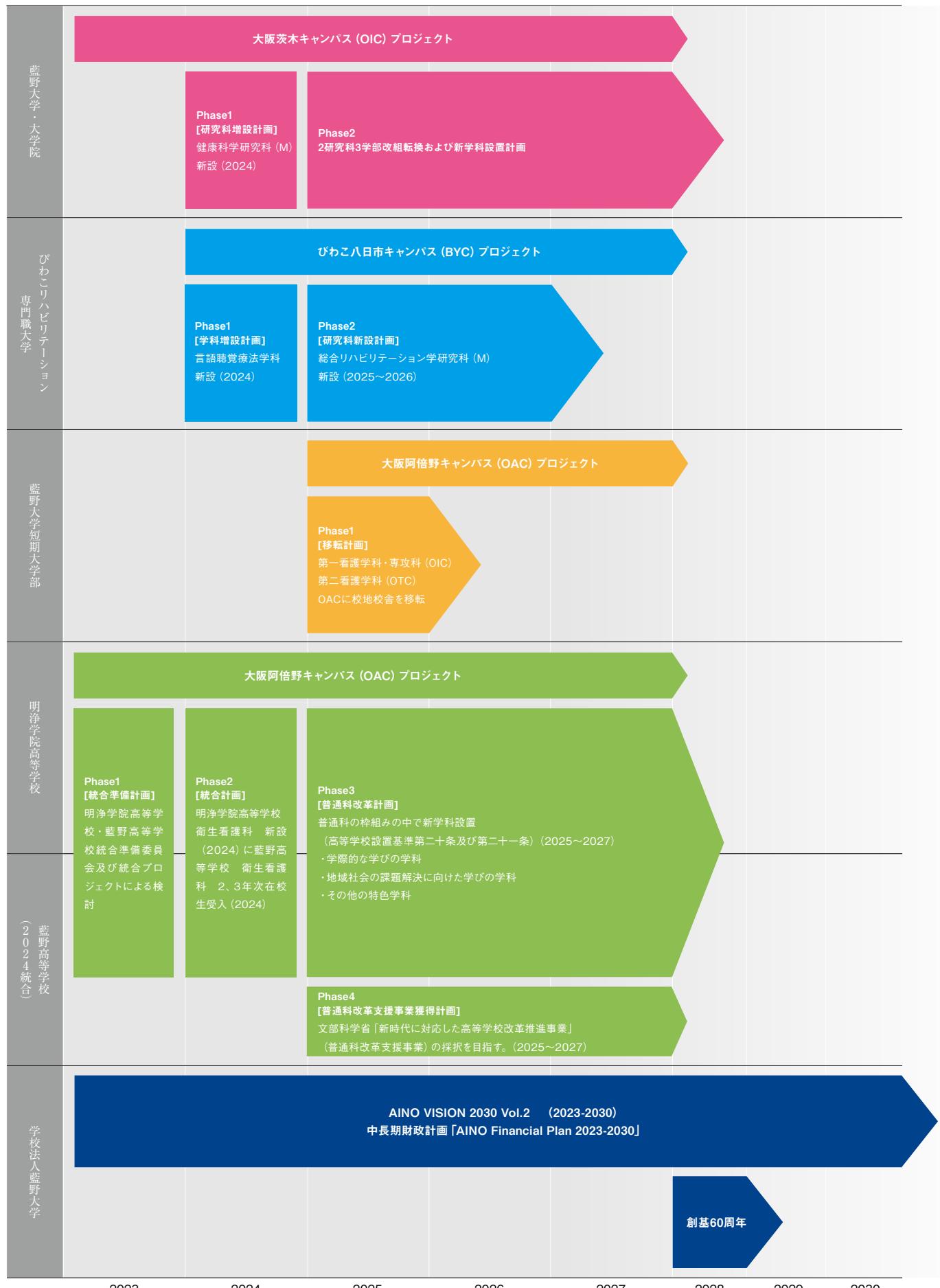
最後に普通科進学アドバンスコースでは、勉学を優先し、総合キャリアコースの総合進学専攻とリンクして難関大学合格を目指す生徒支援に最大限、環境的な応援をします。そのための放課後講習や受験対策では、積極的な情報提供を行い、生徒自身にも自らの目標、課題設定を明確化させ、取り組み内容を具体化させることで、進路実現を図り、コース全員の目標大学合格を目指します。

衛生看護科においては、2024年阿倍野キャンパスの本校で生徒募集開始となります。藍野高等学校茨木キャンパスで培われたその専門性および高度な医療系学習を維持しつつ、大阪府下唯一の高等学校卒業時の准看護師資格取得可能校としての優位性と特色とともに、藍野大学短期大学部第一看護学科との5年間での看護師受験資格取得の一体感を強調することで、医療人を目指す多数の優秀な人材の獲得を目標とします。



新校舎完成予想写真





※大阪富田林キャンパス (OTC) は 2024 開校

※上記各計画のスケジュールは今後の検討状況により変更となる可能性があります。

サンデー毎日「大学プレスセンターニュース・アクセスランクイン」全国1位にランクイン！

学校法人藍野大学は、2018 年の創基 50 周年以降、より一層、社会価値の創出力を高め、変革の速度を上げてきました。

これらの個々の取り組みが功を奏し、大学プレスセンターのニュース・アクセスランクインで本法人のプレスリース「学校法人藍野大学内部監査室キックオフミーティ

ング開催～アドバイザリーボードメンバーからのメッセージ～」が全国 1 位にランクインするなど、社会から徐々に注目が集まっています。

今後も本法人の魅力をより広く、深く知っていただくために、「Collaborative Creation(協創)」をさらに拡大・推進し、積極的なコミュニケーション活動を展開してまいります。

大学プレスセンター ニュース・アクセスランクイン

ベスト 30 ランクイン (サンデー毎日掲載) (2020 ~ 2022)

ランキング (順位)		配信日	タイトル	掲載号
全国	近畿			
19	4	2020.4.1	4月1日に新理事体制が発足。組織体制の強化により、戦略的かつ緻密で機動的な法人運営の推進を目指す。	2020.6.7 号
29	7	2020.8.3	新型コロナ感染症の拡大防止に向け、同大・同短大部を含む茨木市内6大学が8月に茨木市と共同声明を発表。	2020.10.11 号
6	3	2020.8.20	学校法人明浄学院が運営する明浄学院高校の設置者を2022年4月、学校法人藍野大学に変更で合意。	
26	8	2021.1.12	新型コロナで実習ができず困っている医療系学生を VR (バーチャルリアリティー) で支援する大阪大大学院 医学系研究科の菅本一臣教授のプロジェクトに、藍野大医療保健学部の学生らも参加。	2021.3.7 号
22	17	2021.6.16	関連の医療法人恒暉会が協力し、藍野大が新型コロナワクチン大学拠点接種の実施を決定。また、同法人のびわこリハビリテーション専門職大 (滋賀県) が、県内のワクチン接種会場に教員 (医師) を派遣。	2021.8.8 号
22	10	2021.7.9	茨木市内で初の大学拠点接種を7月13日から実施。医師・看護師免許を持つ教員や関連の医療法人が協力。	2021.9.12 号
16	4	2021.8.10	府内の保健所に短大部の教員3人と、保健師・看護師資格を有する在学生2人を応援派遣。	2021.10.10 号
24	9	2021.8.20	大学拠点接種の会場や、学生、運営スタッフへのインタビューの様子を撮影した PV 動画を公開。	
30	7	2021.12.24	食品の支援が必要な学生らに、食品ロス削減を目指す LAWSON からクリスマスケーキの余剰分が寄贈。	2022.3.6 号
12	5	2022.2.15	全学生・生徒と教職員に22年度からメッセージアプリ「Slack」を導入。デジタル活用を進める。	2022.4.10 号
1	1	2022.7.1	理事長直轄の組織として内部監査室を設置。多彩な有識者を迎える、組織の機能強化に取り組む。	2022.9.11 号
2	2	2022.11.11	社会福祉法人「花の会」「わかくさ福祉会」と協働し、障がい者に対する就労支援の場をキャンパス内に形成。手作りのお菓子やハンドメイド作品などを不定期で販売・展示中	2023.2.12 号

【出所】毎日新聞出版「サンデー毎日」

Salesforceより学校法人藍野大学のSlack活用について表彰されました

2023年3月30日、株式会社セールスフォース・ジャパン Slack 事業統括本部より、2022年の学校法人藍野大学の Slack 活用の成果に対して表彰されましたことをお知らせします。

今回の表彰においては、国内の大学・教育機関としては学校法人藍野大学のみが表彰対象となり、その他 6 社が表彰されました。

■ 学校法人藍野大学の主な活動実績

マイナビ TECH+ 取材協力「医療保健系大学で初の全学導入！藍野大学の Slack 活用までのプロセス」Slack Frontiers Japan 2022への登壇「目的に応じたツール選定～あなたはなぜ Slack を導入したのか」教育機関向け・Slack 活用ウェビナーの開催「3000名規模大学全校で Slack の展開を成功させた秘訣とは？」



表彰式と受賞トロフィー
(左:学校法人藍野大学 副理事長 山本 嘉人、右:株式会社セールスフォース・ジャパン Slack 事業統括本部 常務執行役員 統括本部長 佐々木 聖治)

VOICE



学校法人藍野大学 副理事長
山本嘉人

総合計画・事業推進
財務運営統括執行者

コロナ禍において、学生・生徒、教育職員及び事務職員のコミュニケーションツールとして Slack はその効果を発揮し、学校法人藍野大学の取り組みが評価されました。

学校法人藍野大学は、社会・経済が“アナログ”から“デジタルを活用”する時代の変化に合わせ、DX (デジタル・トランスフォーメーション) が進展する社会を牽引する教育機関となるべく、大学、専門職大学、短期大学、高等学校の全ての学生・生徒、教育職員及び事務職員に2022年度 (4月1日より順次開始) よりプロダクティビティプラットフォーム Slack を導入しました。

本ツールは、学内をつなぐコミュニケーションツールとして活用し、コロナ禍において人間関係構築の機会が急減した学生・生徒に対して、つながりの場を提供します。さらに、プラットフォームとしての機能を有しており、本学に導入済みの種々のシステムに対し、シームレスに接続し、抜本的な業務効率化が期待できます。

この度の Slack 活用に対する表彰を機に、組織の枠を超えた多様でシームレスな“学びの場”的提供を着実に進めてまいります。

様々な協創を通して地域社会に貢献



学校法人藍野大学は、教育・研究だけではなく、社会貢献を基本的な使命として、地域社会、産業界、自治体との協創を推進しています。

また、「関西 SDGs プラットフォーム」の会員として持続可能な開発目標を支援し、SDGs の達成を目指しています。
<https://kansai-sdgs-platform.jp/>

キャンパス内に“障がい者の方に対する就労支援”の場を形成

手作りのお菓子およびハンドメイド作品などを藍野大学内で販売・展示 —



藍野大学は、社会福祉法人花の会（大阪府高槻市）ならびに社会福祉法人わかくさ福祉会（大阪府高槻市）と協働し、地域への開放場所である校舎「Medical Learning Commons 1階」を活用し、訓練中の障がい者の方に対する就労支援事業を実施しています。

具体的には「出張カフェ」として、工芸品およびお菓子などのハンドメイド物品の販売、展示会の開催を学生の支援（ジョブサポート）を受けつつ、双方の協力のもとで週に2～3回不定期で開催し、実践的な仕事を経験します。

カフェの名称は、3's café（さんず・かふえ）と言い、地域活性化に向けた地域と学生の協働（symphony）、扶助（support）し合える優しい社会（social）創りを目指しネーミングしました。

本事業は、「学生のコミュニケーションの場の確保」と「作業所でつくる物品の販売先確保」という双方が抱え

る課題に合致したプロジェクトであり、このような形での大学による障がい者への就労支援事業は例がないことから、同大では今後、さらに充実を図ってまいります。



医療機関と包括連携協定を締結



藍野大学は、2022年6月と11月、2023年2月に、社会医療法人愛仁会 高槻病院（大阪府高槻市）ならびに社会福祉法人 恩賜財団 京都済生会病院（京都府長岡京市）、日本赤十字社 高槻赤十字病院（大阪府高槻市）、社会医療法人仙養会 北摂総合病院（大阪府高槻市）と、医療人材の育成と医療の発展に寄与することを目的に包括連携協定を締結しました。

本協定は、保健医療・医学分野での研究、本学への医師・看護師などの派遣や本学教員による医療スタッフへの教育活動といった人材の相互派遣を行うとともに、

実際の医療施設や設備での臨床実習指導、さらにはキャリアアップ支援など、包括的な連携のもと、医療人材の育成と医療の発展に寄与することを目的としています。



高槻病院 包括連携協定締結式の様子



京都済生会病院 包括連携協定締結式の様子



日本赤十字社 高槻赤十字病院
包括連携協定締結式の様子



北摂総合病院 包括連携協定締結式の様子

AINO TOWN 食品廃棄ゼロエリア創出プロジェクト



学校法人藍野大学は、2022年5月に環境省が食品ロス削減と食品リサイクルを実効的に推進するための先進的事例を創出し、広く情報発信・横展開を図ることを目的とした「令和4年度 地方公共団体及び事業者等による食品廃棄ゼロエリア創出の推進モデル事業等」に採択*されました。

本プロジェクトは、藍野大学、藍野大学短期大学部、藍野高等学校が立地する大阪茨木キャンパスにおいて、学生・生徒、教職員の食品ロス削減の意識を育み、3つの学校の共用である学生食堂から食品廃棄物をなくそうという取り組みです。

2022年から実施しているフードドライブ・フードパントリー活動に加え、学内連携による食事準備量の最適化、食べきれるご飯量の設定、食事メニューサンプルの写真化、アンケートの実施、本学独自の啓発冊子配付、学生デザインを採用した啓発パネルの設置、生ごみ処理機の活用（食品廃棄物の焼却・埋立ゼロ）を行い、事業実施段階で、課題意識を明確に持たせ、学生・生徒、教職員の自発的な『学び合い』の空間を広げました。

*本学が採択されました部門I「食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業」は、地方公共団体や事業者等が特定のエリア内の食品廃棄ゼロ（食品の焼却・埋立ゼロ）を実施するため、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを活用した施策実施に必要となる事前調査、関係者との調整支援等及び効果検証について、その費用の支援及び技術的支援（事業実施者が困難な効果検証等（GHG削減効果やその他の効果の試算や拡大推計等が想定される）に限る）を行うものです。



学生デザインを採用した啓発パネルの設置



茨木市と市内大学共同の食品ロス削減啓発パスター



食べきれるご飯量の設定

「服のチカラプロジェクト」と「アイシティ eco プロジェクト」へ参加

明浄学院高等学校と藍野大学短期大学部第二看護学科は、以下のプロジェクトに参加し、主催者から感謝状が贈呈されました。

「服のチカラプロジェクト」



明浄学院高等学校は、ユニクロ・GUが主体となって行っている「服のチカラプロジェクト」に参加しました。「服のチカラプロジェクト」は、地域で着なくなった子供服を回収し、難民の方々など世界中で服を必要としている人々に届ける目的で、UNHCR（国連難民高等弁務官事務局）と協力して行う、参加型の学習プログラムです。明浄学院高等学校として初の取り組みでしたが、生徒にとっては世界のどこかで自分が役立っていることを実感できる良い機会となりました。

今後、服のチカラプロジェクトは総合キャリアコース ファッション・メイクアップ専攻主体で進めていく予定です。

「アイシティ eco プロジェクト」



藍野大学短期大学部第二看護学科では、エコ活動の一環として、HOYA株式会社 アイケアカンパニーが主催する「アイシティ eco プロジェクト」に参加し、7,570個(7.57kg)の使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収し、納めました。

本取り組みは、空ケースをゴミとして燃やさないことでCO₂削減に貢献するだけでなく、空きケース売却の収益が公益財団法人日本アイバンク協会に寄付され、視力を取り戻す活動を支えることにもつながります。今後も学生プロジェクトリーダーを中心に継続して取り組みを実践します。



設置校一覧

大阪茨木キャンパス



藍野大学／藍野大学大学院
〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-4
TEL 072-627-1711(代表)



藍野大学短期大学部
〒567-0018 大阪府茨木市太田3-9-25
TEL 072-626-2361(代表)



藍野高等学校
〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-11
TEL 072-627-1796

大阪富田林キャンパス



藍野大学短期大学部
〒584-0076 大阪府富田林市青葉丘11-1
TEL 072-366-1106

びわこ東近江キャンパス



びわこリハビリテーション専門職大学
〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町967
TEL 0749-46-2311

大阪阿倍野キャンパス



明浄学院高等学校
〒545-0004 大阪府大阪市阿倍野区文の里3-15-7
TEL 06-6623-0016

AINO VISION 2030 REPORT Vol. 2

2023年4月発行

学校法人 藍野大学

〒567-0011 大阪府茨木市高田町1-22

TEL : 072-621-3764

<http://www.aino.ac.jp/>